Discourse Marker の一考察（2）

—推論を表わすso と then—

松　尾　文　子

1．はじめに

Ball では推論（inference）を表わす語句として，so， then などをあげている。いずれも談話でつなぎの機能を持つ。推論とは「他の仮定が真である，あるいは真であろうということに基づいて，ある仮定が真である，あるいは真であろうと考えられる過程」[1)]，「書かれ（述べられ）ていることの文字通りの意味から書き手（話し手）が伝えようと意図していることに到達するために読み手（聞き手）がふまなければならない過程」[2)]である。

Blakemore（1988）で述べているように，後続の命題が先行の命題から演繹できるとき，二つの命題は推論関係にあると言う。So や then は発話によって表わされる命題内容に対する貢献（命題内容の一部を成す）という観点からだけでは分析不可能で，命題間に推論関係があることを発話解釈の過程で知らせるという語用論的観点から分析できる。談話は一連の関連性のある発話から成り立っており，聞き手は無意識のうちに一連の発話から「それが含意する，あるいは文脈上事実と仮定されることを計算」[3)]する。

文脈は発話理解に不可欠な要素である。文脈にはある発話とそれに隣接する発話によって作られる言語的文脈と，発話の場面，背景知識，話し手や聞き手の意図・心理状態，社会的要因などの非言語的文脈がある。発話理解に重要なのはこのような文脈に依存した含意である。一連の仮定｛P｝は次のような場合にのみ文脈｛C｝においてある仮定｛Q｝を文脈上含意（contextually imply）する。

（i） the union of {P} and {C} non - trivially implies Q,

（ii） {P} does not non-trivially imply Q, and

（iii） {C} does not non-trivially imply Q.[4)]

{P}, {C} それぞれ単独では得られない情報が文脈含意である。文脈含意はその文脈の解釈の方法によっていくつかの可能性があるが，「話し手は特定の含意が文脈効果を持つと思っているから注意を引く」[5)]のであり，その特定の文脈こそ，話し手が伝えたいであろう意図なのである。この含意がうまく引き出せないと，伝達は成功しない。

So, then いずれも先行文脈を証拠として推論するときに用いられる。日本語にすると両語とも「それでは，それなら，では，じゃ（あ）」となるが，果してこの二語には違いがあるのか，以下考察を加えたい。

2. So

語用論的 so は背景に意味論的な原因―結果の関係を持つが，論理的にはっきりした関係ではない。

(1) John is sick, *so*[6)] he is home. (Schiffrin p. 211)

(2) a. If John's lights are burning, John is home.

b. John's lights are burning,

c. So, John is home (*Ibid* p. 205)

(1)は意味論的 so で，原因－結果の関係は明示的であり， so は知識の変化をマークする。それに対し，(2)は語用論的 so である。（2 a），（2 b）は（2 c）の推論の根拠となる背景知識である。新たに共有された情報は（2 c）の解釈を導き出すための基になり，このとき so を用いることができる。したがって so は知識の変化ではなく，メタ知識の変化をマークするのである。

So は文脈含意，つまり伝達したい意図を述べたり，確認，あるいは質問したり，文脈含意の理解度チェックに用いられる。(3)は先行の話し手の情報から文脈含意を引き出し，「ということは／つまり…ということです（ね）」という意味を持つ，

(3) "It's a matter of opinion."

"Right, *So* there's no point in discussing it further. We never agree."——Guest, *Ordinary People*

(「それは見解の相違だな」「そうね，じゃあこれ以上議論することないわね。絶対に意見は一致しないでしょうから。)」

(4)は Macon と Sarah 夫妻が離婚同然の状態になり，妻が家出した後の口論の場面である。Well は発言をちゅうちょしている合図で，Sarah が "Well, anyhow."に続けて言うであろうことを Macon が推論して発言している。"I guess"によっても文脈含意を推論していることがわかる。

(4) "Goddammit, Sarah——"

"Don't you curse at me, Macon Leary!"

They poused.

Macon said, "Well."

Sarah said, "Well, anyhow"

"*So* I guess you'll come by while I'm gone, "he said.—Tyler, *The Accidental Tourist* (「くだらんこと言うな，サラ」「私に向って怒鳴らないでよ，メイコン・レアリー！」二人は黙った。「うーん」「ええ，いずれにせよ」「じゃ，君はぼくがいない間に家に来るんだね」と彼は言った。)

So は前に言語的に明示された文脈（つまり発話）がなくても用いられる。話し手が so 以下で述べる推論された文脈含意の根拠は非言語的文脈である。しかし，聞き手にはその発話が理解できる。話し手，聞き手両者とも一連の発話は関連性があるという仮定に立って，発話を理解しようと努力するからである。(5)では Paulita が Tracy の姿をみて，(6)では小包を抱えた人を見て文脈含意を引き出している。

(5) Paulita grinned with surprise when she saw Tracy. "*So* you came back to us, pretty pussy. You liked what we did to you, huh?"—Sheldon, *If Tomorrow Comes* (ポリータはトレーシーの

姿を見て驚ろき，ニヤッと笑った。「じゃあここへ戻って来たってことかね，かわい子ちゃん。おまえにしてやったことが気に入ったんだろ，え？」)

(6) a speaker who has just seen someone arrive home laden with parcels

"*So* you've spent all your money."

(Blakemore 1987, p. 86)

インフォーマントによると，この例で so を then に置き換えると容認不可，あるいはかなり容認度の低い文になると言う。詳しくは後述するが，具体的な言語的文脈がないので，戻るべき discourse time が不明瞭であることに起因すると思われる。

So ＋疑問文の形式の疑問文は本来の情報を求める機能ではなく，先行発話から推論できる話し手の意図，つまり文脈含意の確認の機能を持つ，(7)の文脈含意は「君には何もできなかったんだ」である。

(7) "You were on opposite sides of the boat." Berger says, "so you couldn't even see each other. Right?"

He nods his head as he sits up. ……

And he was a better swimmer than you. He was stronger, had more endurance."

"Yes."

"*So*, what is it you think you could have done to keep him from drowning?"—Guest, *Ordinary People*（「ボートの反対側にいたんだろ，だからお互いが見えなかった。そうだろ？」彼は立ち上ってうなずく。……「それに彼は君より泳ぎがうまかった。君より強いし忍耐力もあった。」「うん。」「そう，じゃ，溺れないように君に何ができたって言うんだい？」)

(8), (9)は非言語的文脈から導き出した文脈含意を確認している。

(8) An earthquake erupted : the earthquake was the telephone, ……

TC: Jake?

JAKE: *So* you finally made it back stateside?

TC: This morning.—Capote, *A Nonfiction Account of an American Crime*（突然地震が起こった。電話が鳴ったのだ。……「ジェイクかい？」「じゃあ，やっと帰って来たのかい？」「今朝ね。」）

(9) The policeman looked at Charlie and Charlie smiled back.

"*So* you know about the robbery?" queried the man.

"I didn't get your name?" replied Charlie.—Freemantle, *Clap Hands, Here Comes Charlie*（警官がチャーリーを見つめるとチャーリーは微笑み返した。「では，盗難のことはご存知ですね？」「まだお名前をうかがっていませんでしたね？」）

(8)ではＴＣが電話に出たことから，(9)ではふつうなら警官が訪ねて来たら多少なりとも驚ろくであろうが，それどころか微笑みさえした Charlie の様子から文脈含意を引き出し，確認している。

文脈含意が理解できない場合は，文脈含意自体を問うことがある。

(10) "I'm on these crutches."

"*So*? It's good exercise for your leg," she said. She didn't ask how the leg had been broken.—Tyler, *The Accidental Tourist*（「松葉杖をついてるんだ。」「それで？　脚にはいい運動になるんじゃない。」彼女はどうして脚を折ったのか尋ねなかった。）

相手の意図，つまり文脈含意が理解できないふりをし，故意に相手の期待には反する含意を引き出している。わかっていながら別の文脈含意を導き出すことで皮肉なニュアンスが生じる。[7)]

So は聞き手が文脈含意を理解してくれているか，チェックする機能を持つ。

(11) He (Garner) sat back triumphantly in his chair. "*So*," he said.

"*So*," Macon said.

"*So*, you get my point."

"What point?"—*Ibid.*（彼は勝ち誇ったように椅子に座り直した。「どう思う？」「どうって」とメイコンは言った。「で，私の言いたいことがわかっただろう。」「言いたいことって？」）

話し手（Garner）は聞き手（Macon）が正しく文脈含意を推論し，発話を理解してくれることを期待しているが，聞き手は理解できないので"So"と聞き返している。

So は話が脱線した時に本題に戻る"recall signal"として用いられる。

(12) "Still got the little house in Wimbledon?"

"Yes," said Johnny. "Neighbours think I've been working on a five-year contract in Saudi Arabia."

Pie nodded again, the encounter concluded.……

"*So* should anyone want you, they could contact you there?"

—Freemantle, *Clap Hands, Here Comes Charlie*（「まだウィンブルドンに小さな家を貸りてるんだな？」「ええ，近所の人は私がサウジ・アラビアで5年契約の仕事をしていると思っています。」パイは再びうなずき，あいさつは終った。……

「じゃ，用事があればあそこに連絡すればいいんだな。」）

So を単なる"recall signal"としてとらえるだけでなく，いくつかの可能な文脈含意の中の一つに注意を引き，先行発話の適切性，この例ではウィンブルドンに家はあるのかと聞いたことのその談話での関連性を高める機能を持つとも考えられる。

相手の伝達意図，つまり文脈含意を推論し，それを述べることから，so…は You mean…と似た機能を持つのではないか。

3．Then

Then は「後続の発話の情報源として先行の discourse time に言及」[9] する。また深層には if…，then—．の条件—帰結節があるが，この関係は明示的ではない。明示的には発話されない if…の部分が，then 以

下の発話の適切性を高め，発話行為を確認している。

(13) MARILYN: Please, let's sit here. Let's wait till everyone's left.

TC: Why?

MARILYN: I don't want to have to talk to anybody. I never know what to say.

TC: *Then* you sit here, and I'll wait outside. I've got to have a cigarette. —Capote, *A Beautiful Child*（「お願い，ここに座ってましょうよ。みんなが行ってしまうまで待ちましょう。」「どうして？」「誰とも話したくないの。何を言えばいいかわからないのよ。」「じゃあここに座ってればいい。僕は外で待ってるよ。一服吸いたいんだ。」）

(14) "Brenda and me did not speak to each other for very nearly every bit of nineteen and thirty-five," Garner said.……

"What," he said, "not even 'Pass the salt?' 'Open the window'?"

"Not even that."

"Well, how did you manage your daily life?"

"Mostly, she stayed over to her sister's ."

"Oh *then*," —Tyler, *The Accidental Tourist*（「ブレンダと私は1935年はほとんど口も利かなかったんだ。」……「え？　塩を取ってくれとか窓を開けてくれともかい？」「そうだよ。」「うーん，それでどうやって毎日暮らしてたんだい？」「だいたいあいつは妹の家にいたんだ。」「ああ，それなら（わかるよ）。」）

(13)では if の部分は「話したくないし，何を言えばよいかわからないなら」，(14)では「一緒にいずに妹の家へ行ってたなら」で，then を含む節で表わされる発話の適切性を確認している。

Then ＋疑問文の形式で用いられる疑問文は so の場合と異なり，情報を求める機能を持つことが多い。

(15) "I'm not worried abont Con," he says.

"Who, *then*? Is it Beth? Is something wrong between Beth and you?" —Guest, *Ordinary People*（「コンのことでくよくよしてるんじゃない。」「じゃ，誰のことで？　ベスかい？　ベスと君の間で何かあるのかい？」）

" Who, then? " には，if you aren't worried abont Con が含意され，この if 節が「じゃあ，誰のことで悩んでいるのか」と尋ねる発話行為の適切性を確認している。if 節と then 節には意味論的な関係はない。

Then ＋疑問文と隣接する文脈を調べてみると，質問―否定的応答―Then ＋疑問文，主張―否認― Then ＋疑問文の形式が多く見られた。

(16) "What's the matter?" she whispers. "Is something the matter?"

"No! Nothing's the matter."

"*Then*, why can't we go?"—*Ibid.*（「どうしたの？　何か都合が悪いことでもあるの？」「いや！別に。」「じゃ，何故行けないのよ？」）

(17) "The way she—Con, she was upset tonight. She was angry."

"No, I don't mean tonight."

"What, *then*?"—*I bid.*（「(君に対する）見方ねえ，コン，お母さんは今晩興奮してたぞ。怒ってたぞ。」「ちがうんだ，今晩のことじゃない。」「じゃあ，何だ？」）

Then ＋疑問文で表わされる発話の適切性を認める根拠として，自分の意見が否定されることで「もし自分の言う通りでないのなら」という if 節を暗に含意する文脈がある。

Then ＋命令文の形式もよく見られるが，やはりここにも if…，then―の含意がある。

(18) "I don't think it's a good idea for us to blame ourselves for what happened, Cal."

"Fine," he says curtly. "Don't, *then*. If that means a damn thing."—*Ibid.*（「起こったことで自分を責めるのはいいことだとは思わないわ，キャル。」「そうかい。じゃ，思わなきゃいい。それでどうにかな

るならね。」)

(19) "Why don't you come down tomorrow, and take a look at that car with me? We can have lunch."

"I can't tomorrow."

"I ought to put the order in soon, to get delivery before Christmas."

"*Then*, do it," she says. "Do what you like. I'm not good at picking out cars anyway."—*Ibid*(「明日，出て来ないか？　あの車を一緒に見て昼ごはんでも食べようよ。」「明日はだめよ。」「クリスマス前に届けてもらうにはすぐ注文しなきゃならないんだ。」「じゃ，そうすれば，お好きなように。どうせ，私には車のことはわからないんだもの。」)

(18)では if 節にあたるのが「もし起こってしまったことで自分を責めるのはよくないと思うなら」で，「そう思うな」という発話の適切性を確認している。さらに，"If that…"により，適切性がいっそう高められる。(19)でも同様に「すぐ注文すべきだと言うなら」が「そうしろ」と命令する発話行為の適切性を確認し，さらに"I'm not…"により発話自体の正当性をも強めている。

このように，then はいったん先行発話に戻る橋渡しの役目をし，その先行発話を if…, then—．の if 節としてとらえ，それを情報源にして then を含む発話や発話行為の適切性を確認する。ただし，if 節は明示的に表現されない。

4．むすび

So, then いずれも先行文脈の情報を根拠に推論をする時に用いられる。ただし，then は言語的に明示された先行文脈（発話）を必要とする。So は背景に意味論的な原因—結果の関係を持つが，論理的に明確な関係ではない。いくつかの可能な文脈含意の中から，現行の談話と最も関連性のある重要なものを推論し，その含意を提示・確認・質問する。また，文脈含意，つまり伝達意図の理解度をチェックする機能を持つ。

Then は先行の発話に戻る橋渡しをし，深層にある if…, then—. の条件—帰結節の if 節に先行の発話を組み込む。明示的に表わされない if 節が，then 節の発話や発話行為の適切性を確認する材料になる。

⑳ "You speak German?"

"Yes."

"Ah, *so* you're not Russian, *then*?"

"No."—Archer, *Kane and Abel*（「ドイツ語を話すのか？」「はい。」「ああ，じゃロシア人ではないんだな？」「ええ。」）

⑳では，ドイツ語を話すことからロシア人ではないという文脈含意を推論し（so），さらにその文脈含意を提示する発話行為の適切性を確認（then）している。

脚　注

1) Sperber and Wilson, p. 68.

2) Brown and Yule, p. 256.

3) Levinson, p. 49.

4) Sperber and Wilson, p. 107.

5) Blakemore (1987), p. 86.

6) 以下，例文中のイタリック部は全て筆者による。

7) 〔*Web. Collegiate*〕に "belittle a point under discussion"，〔*LDCE*〕に so what? の形で "why is that important?" とある。

8) Ball 他。

9) Schiffrin, p. 250.

参考文献

Ball, W.J., *Dictionary of Link Words in English Discourse*. London: Macmillan, 1986.

Blakemore, D., *Semantic Constraints on Relevance*. Oxford: Basil Blackwell, 1987.

———, "'So'as a constraint on relevance" in Kempson(ed.), *Mental Representations : The influence between language and reality*. Cambridge: CUP, pp. 183—95. 1899.

Brockway, D., "Semantic constraints on relevance" in Parret (eds.), *Possibilities and Limitations of Pragmatics*. Amsterdam: John Benjamins, pp. 57—78.1981.

Brown, G. and G. Yule, *Discourse Analysis*, Cambridge: CUP, 1989.

Levinson, S.C., *Pragmatics*. Cambridge: CUP, 1987.

Schiffrin, D., *Discourse Markers*, Cambridge: CUP, 1987.

Sperber, D. and D. Wilson, *Relevance*. Massachusetts: Harvard University Press, 1986.

辞書

Longman Dictionary of Contemporary English. London: Longmans. 1987. 〔*LDCE*〕

Webster's New Collegiate Dictionary. Springfield, Mass. Merriam.1985[9] 〔*Web. Collegiate*〕

引用作品

Archer, J. *Kane and Abel* (1986)

Capote, T. *A Nonfiction Account of an American Crime* (1980)

———, *A Beautiful Child* (1980)

Freemantle, B. *Clap Hands, Here Comes Charlie* (1978)

Guest, J. *Ordinary People* (1976)

Sheldon, S. *If Tomorrow Comes* (1985)

Tyler, A. *The Accidental Tourist* (1986)